

指定管理者制度導入施設の将来ビジョン

施設名	別府港北浜ヨットハーバー
所在地	別府市北浜1丁目818-386
県の所管部局(課・室)	土木建築部 港湾課
設置年月日	平成22年7月1日(設置から13年9か月)※令和6年4月1日現在
設置目的	海洋性レクリエーションの振興及び、別府港内の不法係留船の適正係留のため
指定管理期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

【検討結果】

施設の今後のあり方

	存続 (利活用)	存続 (整理統合)	廃止												
理由	<ul style="list-style-type: none"> ○高い係船率・マリンスポーツの競技拠点という特徴を活かし、近隣の施設と連携して九州の海の玄関口である別府港のにぎわい空間を創出し、観光振興に寄与していく。 ○日本を代表する温泉観光地にあり、交通アクセスや周辺環境に恵まれた県内有数のレジャー用船舶の係留施設であるとともに、別府湾は全国・九州規模の大会や近隣高校の部活動で使用されるなど県内外の競技拠点となっている。(別府駅から徒歩8分、近隣施設として旅館やショッピングモールがある。) 														
管理方法の検討	<p>以下の理由により、民間事業者のノウハウを活用するメリットが大きいため、今後も指定管理者制度を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現指定管理者がフォークリフト運転技能資格を持つスタッフを有していることによる、運転操作の外部委託費等、経費の削減につながっている。 ○現指定管理者はヨットハーバーやマリナー等の知識に精通している会社であるため、利用者と良い関係性を構築している。 ○指定管理者が管理する類似の他施設での声かけや、周知により係船率の向上につながっている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H27(導入以前)</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>84%(目標66%)</td> <td>96%(目標70%)</td> <td>98%(目標82%)</td> <td>96%(目標83%)</td> <td>98%(目標84%)</td> </tr> </tbody> </table>			H27(導入以前)	R1	R2	R3	R4	R5	60%	84%(目標66%)	96%(目標70%)	98%(目標82%)	96%(目標83%)	98%(目標84%)
H27(導入以前)	R1	R2	R3	R4	R5										
60%	84%(目標66%)	96%(目標70%)	98%(目標82%)	96%(目標83%)	98%(目標84%)										

ビジョンの設定期間

ビジョンの設定期間	令和5年度～令和14年度
次回策定	令和14年度
中間見直し	令和6年度
次回指定管理者公募予定	令和7年度

存続の場合

1. 目指すべき施設像及び利用者像等

施設像	<ul style="list-style-type: none"> ①係船率が高く、安心・安全に利用できる施設 ②マリンスポーツの魅力を発信できる施設 ③競技大会を通じて、競技者の技術力向上に資する施設 ④上記②及び③の取組を近隣のホテルや観光施設等と連携して、別府市周辺の観光振興に寄与する施設 	
利用者像	<ul style="list-style-type: none"> ①船舶の保管等を目的として継続的に利用する県内在住者や、観光などレジャーを目的として寄港する県外在住者 ②世代を問わずマリンスポーツに関心のある人々 ③競技大会への参加者及び近隣の宿泊者や観光客 	
定量的目標達成指標	①	係船率の維持向上 令和14年度 100%(R1～R3平均:94%) (緊急使用のための3バースを除く)
	②	競技大会などイベントの開催の増 6回/年(R1～R3平均:4回/年、R3～R5平均:6回/年)
定性的目標達成指標	①	利用者の拡大や満足度向上のために、ニーズに応じたサービスの提供や施設管理に取り組む。
	②	観光振興や海洋性レクリエーションに対する関心の向上のために、近隣のホテルや観光施設等との連携やイベントの開催などに取り組む。

2. 目指すべき像を達成するための課題とその解決策、実施方法・実施時期（解決への優先順に記載）

課題1	人口減少・少子高齢化に関する課題（必須）
○施設利用者の多くを高齢者が占めており、高齢化による利用者の減少が危惧される。	
解決策	○マリンスポーツの場の提供・マリンイベントの開催や、九州内外から参加者が集う競技大会の誘致に取り組む。 また、船舶を保管する他、免許や検査の受付など複合的サービスを提供する。
実施方法・実施時期	○競技大会などイベント開催数：6回／年

（参考）	令和3年度(2021年度)	令和12年度(2030年度)	令和27年度(2045年度)
予測利用者数(人)	22,336	20,482	17,757
直近年度比		91.70%	79.50%

課題2	施設管理に関する課題（必須）
○波や潮風による設備浸食化など、施設の劣化が生じやすい。	
解決策	○安全性の確保や利便性の向上のため、法定点検の実施及び安全点検の徹底はもとより、潮風による早い老朽化など、設備の状況を考慮した上での計画的な維持補修や整備を実施する。
実施方法・実施時期	○棧橋の非常用ハンゴの設置（令和4年度対応済み） ○毎日の点検におけるチェックシートを作成し、報告 ○船舶を陸揚げするための上架施設使用后、必要な都度ワイヤーの水洗いとグリスアップを実施

課題3	施設内のイベントに関する課題
○ヨット体験会など、一般向けのイベント参加者が少ない。	
解決策	○当施設のマリンスポーツを宿泊プランに取り入れるなど、近隣ホテルや他の観光施設と連携した魅力あるサービスを提供する。 ○マリンスポーツに親しんでもらうため、九州UMIアカデミー等の体験学習会を若い世代に積極的に周知する。
実施方法・実施時期	○近隣観光施設の割引券やパンフレットを設置する。（令和4年度～） ○指定管理者を通じ、近隣ホテルや旅館に対してマリンスポーツを宿泊プランに取り入れてもらうよう声かけを行う。（令和4年度～） ○学校にイベントのパンフレットを配布するなど周知を行う。（令和4年度～）